

# いろは歌

組織や社会には、運営・存続のための方針や規範があり、構成員にはそれを規則として守ることが求められる。このような規則を構成員に知らしめ徹底させるために、そのエッセンスを何カ条かにまとめることが、古今東西よく行われてきた。

日本の歴史で考えてみると、「五箇条の御誓文」などが頭に浮かんでくる。長く続いた幕藩体制がようやく終わり、新国家日本としてスタートするにあたって明治政府が国家の基本方針をまとめたものである。天皇が公卿・諸侯を率いる形で誓約し、太政官日誌によって一般に布告された。

「広く会議を興し万機公論に決すべし。上下心を一にしてさかんに経綸を行うべし。官武一途庶民に至るまでおのおのその志を遂げ人心をして倦まざらしめんことを要す。旧来の陋習を破り天地の公道に基づくべし。智識を世界に求め大いに皇基を振起すべし」という条文は、新しい国家経営の考え方を簡潔に表しており、新政府の意気込みのほどが感じられる。

企業でも、創業の精神を数個の項目にまとめた社訓を定め、社員などに示している例は多い。企業の存在の根幹とも言うべき堂々とした文章が並んでいるのが特徴である。

社訓よりももう少し項目を多くして、10や20の条文で企業運営の基本規則や方針を定めているところもある。このくらいの数になると

規則や方針も具体的で、これだけは守ってほしいという大切な考えやルールをまとめたものとなっている。

ところで、教訓やルールなどを簡潔な格言の形で表し、かつ覚えやすくするためにゲームにしてしまったものがある。18世紀後半に作られたと言われる「いろはかるた」である。かるた遊びはしなくなっても、「犬も歩けば棒に当たる」「論より証拠」「花より団子」など、子供の頃から聞き親しんできた格言は多いであろう。最初は意味がわからなくても、成長する過程で耳にする機会も多く、半ば無意識のようにして覚えていく。

「いろはかるた」も上方と江戸、また尾張というように種類があって、内容に異同があるようだ。場所によってとりあげられる教訓に違いがあったということだろう。

この「いろはかるた」がそもそもは子供の遊びであったとすると、もう少し大人用の手法として、歌（和歌）で教訓を表現したものがある。そのようなものに、NHKの大河ドラマ「篤姫」の舞台のひとつとなっている薩摩で、16世紀の中ごろに作られたいわゆる「日新公いろは歌」がある。

薩摩には独特の詩風、文化が育ったとされるが、その基礎を築いたのが、薩摩を統一して島津家を戦国大名たらしめた島津忠良と言われる。忠良は文武両道を極め、「薩摩の聖君」「島津氏中興の祖」と称えられ、後世ま



で「日新公」と呼ばれ尊敬された。その忠良が作った「日新公いろは歌」は、「いろは」47文字をそれぞれ頭によみ込んだ47首の歌で薩摩武士の精神や守るべき規則を表現し、薩摩の士道教化の教材とされたものである。

たとえば「い」は「いにしへの道を聞きても唱えても我が行いにせずば甲斐なし」（どんなに知識があり人に主張したとしても、自ら実行しなければ意味がない）である。ドキッとする言葉である。

「ろ」は「楼の上も埴生の小屋も住む人の心にこそは高き卑しき」（人間の価値は住まいの立派さではなく心のあり方で決まる）となっている。西郷隆盛や大久保利道は家格の低い下級藩士だったから、若いときはこの言葉に励まされたかもしれない。続いては「はかなくも明日の命を頼むかな今日も今日もと学びをばせで」。「明日やるからいいや」という言い訳はだめ、ということである。

全体を通して読んでみると、若い子弟に対して諭すような言葉が多い。ほとんどが現代にも通用する人生訓話である。なかには昔と今の習慣の違いから元の意味がつかみにくいものもあるが、いずれにせよ「日新公いろは歌」は、47首の歌によって日常大切な心構えを説いている。

現代は、「いろはかるた」が作られた江戸時代と比べてみても、法令や規則ははるかに多いであろう。社会でも組織でも、最近とみ

にさまざまな規則が多くなってきている。企業でも「企業行動指針〇項目」「職員行動規範〇項目」「環境企業行動方針〇項目」「情報開示基本原則〇項目」など、規則は増える一方のように思える。

ところが、こうした規則に反した不祥事は一向になくならない。近ごろでは食品の産地や製造日の偽装、官公庁と業者の癒着や贈収賄事件などがさかんに報じられた。やってはいけないというルールが守られない。ルールはわかっているけど守らない。そもそも本人にルールやコンプライアンス（法令遵守）といった認識がないようにも思える。

たしかに、企業はルールを周知徹底させるために、集合研修やeラーニングなどさまざまな施策を行っている。具体的な規則やルールを覚えさせるのは、それはそれで大切なことだが、最も大切なことは、基本的な心構えをほんとうに理解することであろう。

こういう心構えを教えるときは、言葉を正確に並べた法律の条文のような文章より、七五調や五七調の、リズム感のある歌のようなものが覚えやすく適しているかもしれない。

プロジェクトマネジメントのエッセンスを集めた「PM格言かるた」というものもあると聞く。それぞれの地域や組織で、自分たちの「いろは歌」や「いろはかるた」を作ってみるのも面白くはないだろうか。筆者もひとつ…、と思ったところで、どうやら紙数が尽きたようである。 ■